

第1回  
栗駒山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会

日時：令和3年8月10日(火) 13:30～

場所：WEB

議 事 次 第

- 1 開 会
- 2 開会挨拶
- 3 委員紹介
- 4 設立趣意書について
- 5 規約について
- 6 委員長の選出
- 7 委員長挨拶
- 8 議 事
  - (1) 火山噴火緊急減災対策砂防計画の概要、検討スケジュール
  - (2) 計画策定の基本事項の整理
  - (3) 第1回準備会での意見と対応方針
  - (4) 対策方針の設定
- 9 情報提供  
栗駒山の火山活動状況について（盛岡地方气象台）
- 10 閉会

---

■配布資料

- |   |     |                         |
|---|-----|-------------------------|
| 資 | 料-1 | 議事次第                    |
| 資 | 料-2 | 設立趣意書（案）                |
| 資 | 料-3 | 委員会規約                   |
| 資 | 料-4 | 出席者名簿                   |
| 資 | 料-5 | 討議資料                    |
| 資 | 料-6 | 栗駒山の火山活動状況について（盛岡地方气象台） |

**令和3年度 第1回 栗駒山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会  
委員・出席者名簿**

機 関		職 名	委員名	代理出席者名	参加方法	随行者
有識者	岩手大学	教授	井良沢 道也		岩手県会場	
	岩手大学	客員教授	土井 宣夫		岩手県会場	
	弘前大学	名誉教授	檜垣 大助		個別	
	東北大学	教授	三浦 哲		個別	
国	国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所	所長	平井 康幸	副所長 渡辺 敏彦	個別	専門調査官 矢倉 広和
	国土交通省東北地方整備局 北上川下流河川事務所	所長	石田 和也	副所長 高田 浩徳	個別	
	国土交通省東北地方整備局 湯沢河川国道事務所	所長	目黒 嗣樹	副所長 阿部 健一	個別	
国 (森林部局)	林野庁東北森林管理局 岩手南部森林管理署	署長	中島 章文		岩手県会場	
	林野庁東北森林管理局 宮城北部森林管理署	署長	仙北谷 誠	総括治山技術官 松永 哲	個別	
	林野庁東北森林管理局 秋田森林管理署湯沢支署	署長	泉 光博		個別	
国 (気象台)	気象庁仙台管区気象台	火山防災 情報調整官	大塚 仁大		個別	
	気象庁盛岡地方気象台	防災管理官	佐藤 英彦		個別	火山防災官 藤原 健治 火山防災調整係 小林 大曙
	気象庁秋田地方気象台	防災管理官	有賀 孝幸	火山防災官 佐藤 哲郎	個別	
県	岩手県県土整備部砂防災害課	総括課長	戸来 竹佐		岩手県会場	
	宮城県土木部防災砂防課	課長	後藤 孝二		宮城県会場	
	秋田県建設部河川砂防課	課長	田森 清美		秋田県会場	
	岩手県南広域振興局土木部 一関土木センター	所長	小野寺 淳		個別	
	宮城県北部土木事務所 栗原地域事務所	所長	西 信浩		個別	技術次長(班長) 菅原 章仁
	秋田県雄勝地域振興局建設部	部長	高橋 悟	建設部次長 内藤 秀之	個別	
	岩手県復興防災部防災課	総括課長	中里 武司		岩手県会場	主任 須川 治
	宮城県復興・危機管理部 復興・危機管理総務課	課長	佐藤 芳明	課長補佐(班長) 黒澤 昭夫	宮城県会場	
	秋田県総務部総合防災課	課長	佐藤 和彦	主幹(兼)班長 高橋 公康	秋田県会場	
市町村	一関市消防本部防災課	課長	鈴木 博実		個別	
	栗原市総務部危機対策課	課長	山田 茂信		個別	
	湯沢市総務部総務課	課長	高橋 保	総務部総務課防災監兼 総合防災室長 藤井 達也	個別	
	東成瀬村民生課	課長	高橋 弘克		個別	

事務局	岩手県県土整備部砂防災害課	砂防災害担当課長 藤原 俊夫	総括主査 高橋 茂樹	技師 徳田 大地
	宮城県土木部防災砂防課	技師 田中 駿也		
	秋田県建設部河川砂防課	砂防・防災班長 由利 一	副主幹 越前 真人	
	建設技術研究所砂防部	主幹 内柴 良和	グループリーダー 笹山 隆	技師 戸舘 光 技師 河野 元 技師 伊藤 巧

## 第1回 栗駒山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会 討議概要

### (1) 委員長の選出について

- ・委員の互選により井良沢委員を委員長に選任。

### (2) 火山噴火緊急減災対策砂防計画の概要、スケジュールについて

- ・2000年三宅島噴火では降雨の危険性に加えて火山ガスの危険性の中で対策をしたと思うが具体的にはどのように対応したのか（井良沢委員長）。

### (3) 計画策定の基本事項の整理について

- ・栗駒山周辺において、通年営業している観光地と冬期休業する観光地を整理すると良い（檜垣委員）。
- ・観光入込数については、登山や温泉等の目的別の内訳や季節による変動についても整理すると良い（井良沢委員長）。
- ・栗駒山の火山活動の前後で発生した地すべりの位置を立体地形図上に図示し、発生規模と発生要因を整理した方が良い。（檜垣委員）。
- ・ある程度の土塊量を算出することは可能。また事例の中で須川地すべりは直下型地震によるものと考えられているが、他の事例の発生要因は分かっていない（土井委員）。

### (4) 第1回準備会での意見と対応方針

- ・LP等の地形データを取得したら、立体斜度図を作成してそれを速やかに公表するのが良い（土井委員）。
- ・噴火後の水質調査に関して酸性水だけでなく濁水も問題となるので、このことも考慮した水質調査の検討を進めるべき（土井委員）。
- ・被害を生じた火山性地震として紹介されている桜島の事例は、震源が桜島ではないことが分かっているので火山性地震とは言えない。火山周辺で起こる地震等の表現が良い（三浦委員）。
- ・火山性地震による被害や崩壊事例がどこで発生していたのか把握（図示）できると良い（檜垣委員）。
- ・積雪深や積雪密度の推定方法は、栗駒山でも整理する必要があると思う（井良沢委員長）。

#### (5) 対策方針の設定

- ・ 噴火警戒レベル2に記載されている1744年の噴火では、磐井川で予測の難しい流木の積み上げによる泥流の氾濫が確認されている。噴火後に出される噴火警戒レベル2で対策準備するのでは遅い。噴火警戒レベルと対策開始のタイミングは必ずしも対応する必要がないのではないか（土井委員）。
- ・ 噴火警戒レベルと対策開始のタイミングについて、レベルに囚われすぎるのも問題となるため、いろいろな条件のもとでどういった災害が起こりうるかに重点を置いて検討していくことが重要である（三浦委員）。
- ・ 融雪型火山泥流では流木による被害も懸念される。岩手内陸地震後に、砂防堰堤等の整備が進んでいる現状を踏まえて、緊急減災対策でも流木について考慮できると良い（井良沢委員長）。

#### (6) 情報提供

- ・ 資料-6により盛岡地方気象台から栗駒山の現在の火山活動状況について説明。

以 上